

# 広報ちりゅう原稿 10月1日号

市教委だより 学（まなぶ）

— 防災教育「大切な命を守る」 —

教育長 宇野成佳

今年1月1日には能登半島地震がありました。8月8日には日向灘地震が起き、お盆の時期に初めての「南海トラフ地震巨大地震注意情報」が発令されました。また、台風10号等による風水害の被害や公共交通機関への影響等、様々な自然災害が、今年もありました。お亡くなりになりました方へのご冥福と、被災された関係者の皆様にお見舞い申し上げるとともに早期の復興をご祈念申し上げます。

さて、知立市においても振り返ってみますと、多くの自然災害に見舞われています。「新編 知立市史8 資料編 自然」には、次の内容（抜粋）が掲載されています。

気象災害では、梅雨や台風に伴って流域に大雨が降ると河川の流量が増加し、水位が上昇する。水位が堤防を越えると氾濫が生じる。また、平坦地に降った大量の雨が地下に浸透できず、地表に溜まったり、排水用水路や本流に注ぐ小河川の水がうまく排水されず、周囲に溢れ出したりすると内水氾濫と呼ばれる浸水が生じる。直近の洪水被害では、2000年（平成12年）9月「東海豪雨」と呼ばれるもので、秋雨前線と台風14号の影響により、猿渡川および吹戸川、逢妻川男川と逢妻女川の合流点周辺での浸水面積が大きかった。

地震災害では、1944年（昭和19年）12月7日午後1時36分、紀伊半島沖（東南海）を震源とするマグニチュード7.9の地震が起こった（東南海地震）。その約1か月後、1945年（昭和20年）1月13日午前3時38分には三河地震が発生した。三河地震は深溝断層と横須賀断層の活動によって引き起こされた地震で、地震の規模はマグニチュード6.8。二つの地震とも知立町では震度6と推定されている。

市内小中学校の防災教育は、全小中学校において、火災や地震に対する避難訓練を実施しています。主な内容として、児童生徒には、時間を知らせずに行ったり、行方不明者を教員に知らせずに行ったりするなど、様々な状況を想定して実施しています。同時に、児童生徒が非常持ち出し袋の中身を考えたり、学校の防災備蓄倉庫を見学したりする活動を取り入れることもあります。

教科等の授業においては、例えば小学4年の社会科では、自然災害から暮らしを守るための市や住民の取り組み、住民同士の協力について学びます。中学校の家庭科で

は、災害に備えた安全な住まい方について学んでいます。また、総合的な学習の時間のテーマの一つとして防災教育を設定し、調べ学習や見学・体験活動、ゲストティーチャーによる講話、学習成果の地域への発信などを行い、児童生徒の防災意識や実践力を高めている学校もあります。

さらに、9月下旬に開催される市総合防災訓練では、メイン会場となる小学校区在住の中学生が参加し、避難所設営や運営の訓練で活躍しています。

児童生徒の防災意識、災害発生前の備え、発生時や発生後の対応等についての実践力を高めることを目指して、防災教育を行っています。

気象災害への対策として国土交通省では、河川の氾濫が起きそうなときに、余裕を持って逃げるために事前に一人一人の生活に遭ったオリジナルの避難行動計画として「マイ・タイムライン」の作成を進めています。これは、「災害を自分事としてとらえられる」、「友達や家族との話題に取り上げやすい」、「具体的な防災対策や災害後の対応について考えられる」などの効果のある取組みです。

防災対策としては、地震や洪水などの自然災害に備えた建物の耐震化、家具の固定、避難経路の確保、避難訓練の実施、非常用の飲水や食料の備蓄、火災対策などがあります。防災対策の目的は、災害が発生した際に、安全を確保し、命を守り、物的被害を最小限に留めることです。

「自分の命は自分で守る」、「自分たちの命は自分たちで守る」

そのために日頃から災害時における心構えや行動、非常物品など、準備しておくことが、自分の命や大切な人の命を救うことにつながります。

(参考) 知立市ホームページ「防災」サイト

<https://www.city.chiryu.aichi.jp/soshiki/kikikanri/anshinanzen/gyomu/3/index.html>